

新潟県立 文書館だより 第6号

平成16年9月10日

——— 新たに閲覧可能となった文書等 (15.5~16.6) ———

	請求記号	文書群名(関係地名)	年 代	点数	備 考
複 製	A 7 2 - N	中魚沼郡野口村・庄屋記録、御用録(川西町)	慶応4~明治3	3	3分冊
	C 4 5 - T	西蒲原郡針ヶ曾根村庄屋竹石家文書(中之口村)	明暦3~宝暦3	20	4分冊
	D 7 - N	中ノ口電鉄、新潟電鉄(株) 営業報告等	昭和4~昭和19	44	7分冊
	CE0201	北蒲原郡滝谷村會津藩御用留(新発田市)	嘉永4~慶応4	19	8分冊 第4号参照
	CE0211	佐渡郡郡勢調査顛末及原表〔統計書〕	明治45	1	2分冊 第5号参照
	CE0306	新潟市萬代橋関係文書(新潟市)	明治30年代	7	1冊
	C F 1 1	新潟町大助買(鮮魚問屋)片桐家文書(新潟市)	貞享5~昭和30	771	39分冊
	C F 2 0	東蒲原郡広瀬村肝煎長谷川家文書(上川村)	寛永6~昭和22	924	22分冊
	C F 2 6	刈羽郡大崎村庄屋西村家文書(西山町)	万治3~明治43	408	12分冊
	C F 3 1	帰国問題研究会収集文書等	昭和34~	6	7分冊
	C F 7 0	南蒲原郡見附組大庄屋金井杉亭発句集(見附市)	文政元~文政8	9	1冊
受 贈 受 託 等	E 9 5 0 6	県内養護学校等関係資料	昭和35~平成元	296	再整理 第5号参照
	E 9 7 0 8	新潟県農政関係文書の内地域文書	天保5~昭和戦後	519	
	E 9 9 0 1	北蒲原郡保田村・斎藤家自家経営文書(阿賀野市)	元文2~昭和3	3879	
	E 9 9 1 6	旗本池ノ端溝口家代官・堀川家文書(新発田市)	宝暦4~大正12	1561	全4176了 第4号参照
	E 0 2 0 3	新潟県内航空関係文書	昭和42~平成15	398	
	E 0 2 0 9	中頸城郡谷内村文書等(津南町、高柳町)	天明2~大正6	87	
	E 0 2 1 0	刈羽郡柏崎町・茂木製油所経営文書(柏崎市)	寛政9~昭和9	1705	
	E 0 3 0 1	戦後小中学校教育指導資料	昭和7~平成7	123	全156了 第5号参照
	E 0 3 0 4	三島郡吉崎村・安達家文書(三島町)	近世末~明治36	124	
	E 0 3 0 7	刈羽郡柏崎町・茂木製油所業務日報(柏崎市)	明治39~明治42	244	はがき
	E 0 3 0 8	昭和戦前旧中国ほか風景風俗記録写真	昭和4~昭和10年代	861	写 真
	E 0 3 1 3	小学校教育指導資料	昭和53~平成11	131	
	F 6 1	北魚沼郡小千谷町・西脇新次郎家営業文書(小千谷市)	安永3~昭和30	1176	

※太字の文書は解説文があります。

●平成14年度文書管理委任の状況

管理委任課	作成年代	点数
農地部 農地管理課 農村総合整備課	昭和14年～昭和49年	110
	昭和44年～昭和49年	116
土木部 道路建設課 河川課	昭和42年～昭和48年	13
	昭和17年～昭和56年	64
港湾空港局 東港開発課	昭和40年～昭和49年	32
病院局 総務課	昭和34年～昭和58年	112
教育庁 財務課 義務教育課	昭和27年～昭和55年	57
	明治～大正初期	11
合 計		515

●西蒲原郡針ヶ曾根村庄屋竹石家文書（複製）

現中之口村針ヶ曾根。20点、明暦3（1657）～宝暦3（1753）年

竹石家文書の近世前期に関する部分のみですが、明暦3年の惣検地帳を最古に、万治2（1659）、寛文11（1671）、延宝6（1678）、天和2（1682）、貞享元（1684）貞享3（1686）、享保14（1729）年の新田検地帳までの12点のほか、寛文7（1667）年から元禄16（1703）年に至る37年間の年貢割付状写帳、正徳期（1711～15）の村明細帳や小入用帳などが成長期の農村を支配者（主に村上藩）がどうとらえてきたかを如実に示しています。（請求記号C45T）

●中之口電鉄、新潟電鉄(株) 営業報告等（複製）

44点、昭和4（1929）年～昭和19（1944）年

信濃川の支流中ノ口川沿いに白根（しろね）経由で燕町（現燕市）と新潟市の間を結ぶ私鉄会社の、第1回（昭和4）から第28回（昭和18、最終回）にわたる営業報告が通覧できます。新潟電鉄改称は昭和7（1932）年。同18（1943）年に新潟交通(株)に合併となって、新潟交通電鉄として戦後も長く地域住民の足として営業が続けられました。平成11（1999）年完全廃止。（請求記号D7N）

●新潟市萬代橋関係文書（複製）

7点、明治30年代。

明治31年新潟県加藤技師宛て八木朋直書状（2点）、同年ころ「萬代橋経費及び収支計算書」綴、「橋梁費償却年限」綴ほか。

明治19（1886）年、信濃川をはさむ新潟区（当時）の東西を結ぶ最初の橋梁「萬代橋（ばんだいばし）」

が、八木朋直、内山信次郎によって建設され、個人所有の有料橋として運営されました。14年後の明治33（1900）年新潟県に買収されて無料橋となります。文書はその直前の調査にもとづいて作成されたものようです。（請求記号CE0306）

●新潟県農政関係文書の内地域文書

1）北蒲原郡金屋村五十嵐甚蔵家文書、72点

現阿賀野市金屋。明治17（1884）～昭和4（1929）年。土地経営、農業技術改良、地主協和会関係。

2）南蒲原郡田上村田巻家文書、44点

現田上町田上。嘉永2（1849）～大正12（1923）年。土地経営、耕地整理組合関係。

3）岩船郡女川村小見平田家文書、46点

現関川村小見。明治38（1905）～昭和21（1946）年。債務、不動産関係。

4）北蒲原郡苔の実新田関係文書、112点

現中条町苔の実。天保5（1834）～昭和21（1946）年。白勢家土地経営関係。

5）南蒲原郡真野代新田関係文書、33点

現中之島町真野代。明治21（1888）～大正14（1925）年。新潟三菱社、東山農事土地経営関係。

6）南蒲原郡塚ノ目村元川家文書、10点

現三条市塚ノ目。天保8（1837）～明治初年。土地経営関係等。

7）刈谷田川関係文書、4点

明治18（1885）～同20（1887）、昭和10（1935）年。

改修、治水請願等。

8）古志郡岩野、釜ヶ島村文書、5点

現越路町岩野、釜ヶ島。天保4（1833）～明治21（1888）、昭和20年代。隣村出入り、割地調査報告等。

9）北蒲原郡天王新田市島家文書、38点

現新発田市天王。明治2（1869）～同19（1886）年。新発田警察署新築献納、葛塚保定社関係等。

10）北蒲原郡小作爭議関係文書、33点

明治40（1907）～昭和11（1936）年。日本農民組合配布文書等。

11）中蒲原郡内農民組合関係文書等、12点

明治10（1877）～昭和32（1957）年。七谷村（現加茂市）、亀田町、石山村（現新潟市）等。

12）西蒲原郡内産業組合・農会関係文書等、106点

安政4（1857）～昭和32（1957）年。旧式地券、

産業組合新潟支会関係綴、漆山村（現巻町）信販購利組合報告書等。

13) 南蒲原郡内関係文書、4点

大正期～昭和13（1938）年。大面村（現栄町）地主会、田上村（現田上町）農会関係等。

平成9年度 新潟市・久保安夫氏寄贈。閲覧は大部分原本のみ。（請求記号E9708）

● 柏崎町・茂木（もき）製油所経営文書、同業務日報

現柏崎市、経営文書1705点、日報244点。

寛政9（1797）年～昭和9（1934）年

明治30年代後半から同40年代初頭の数年分が大半を占め、即ち、茂木氏が石油採掘・製油に関わった時期の文書が中心となっています。茂木氏は、群馬県出身で、明治30年代初頭に柏崎へ進出し、駅前に製油所を置いて、同35（1902）年ころには曾地（そち、現柏崎市）、鉢崎（はっさき、現柏崎市米山町）、今熊（現浦川原村）で採掘を手掛け、本格的に事業に取り組みます。その内容は「原油受払簿」、「精算簿」、「採油簿」、「出勤簿」、「日誌」等から逐一うかがわれます。曾地、鉢崎からは毎日郵便はがきで業務報告が柏崎の本社へ届き、こまごまとした従業員の日常まで読み取ることができます。また、細かな請求書や領収書が多く残されていることも当時の生活感覚を知るよい手掛かりと言えます。明治40年代に入るところから経営が悪化したようで、同41（1908）年鉱業権の一部を日本石油（株）へ譲渡し、まもなく業界から撤退してしまったようです。明治後末期の石油ブームのもとで中小規模業者がどのような経緯をたどったのかを示す希有な文書群です。平成14年度及び15年度購入。閲覧は原本のみ。

（請求記号 E 0210 及び E 0307）

● 三島郡吉崎村安達家文書

現三島町吉崎。122点、近世～明治36（1903）年

明治以前のものは幕末の手習い手本など3点のみなので同家の立場などは伺えませんが、その後は「岩井屋」を号して土地経営や酒造を行いながら、地域の有力者としての活動を続けた一人であったことがわかります。自家経営については明治6（1873）年からほぼ毎年作成された「諸事控」約40点に記録され、「酒造留」を別に作成している年もあります。明治17（1884）年あたりから連合戸長役場の議員になったものか、そして市町村制以後も村会議員として自治体運営に参加したらしく、同34（1901）年に至るほぼ毎年の予算・決算審議文書綴りが見られま

す。平成15年度購入。虫損の甚だしいものもありますが、閲覧は原本のみ。（請求記号E0304）

● 中魚沼郡川治（かわじ）村・松沢家文書

現十日町市川治、2546点、嘉永4（1851）年～昭和13（1938）年

全体の9割以上が明治期のもので、かつては近世文書も豊富に存在したのですが、市場に流れて分散したと思われます。残った文書の大半は細かな領収書や書状であり、内容のつかみきれないものも少なくありませんが、地域の名望家としての活動や家族の様子、子弟の教育に対する姿勢などが伺われるものもあって、当時の生活感覚を読み取る好史料の一群と言えます。公的な文書としては明治後期郡議会や農会の議案書綴りがありますが、戸長・副大区長・村長・県会議員を歴任したことや、土地経営・酒造業等にも広く携わった関係文書はほとんどありません。昭和57年度新潟市・井上慶隆氏収集寄贈。今回再整理。閲覧は原本のみ。

（請求記号E9114）

● 刈羽郡女谷（おなだに）村・布施家文書

現柏崎市女谷、3663点、承応3（1654）年～昭和23（1948）年。

柏崎市街から南へ約30キロメートル、黒姫山（889メートル）・尾神（おかみ）岳（757メートル）に囲まれた鵜川（うかわ）の最も上流に位置し、重要無形文化財・綾子舞（あやこまい）を伝える地域です。近世前期は長峰藩領（元和2～4）、高田藩

◆本号で紹介している文書等は、原則としていつでも閲覧ができます。目録の詳細は閲覧室の備え付けをご覧ください。

◆文書等の閲覧は、原本のみの場合は原本を、複製物があるときは、そちらを御利用いただけます。

◆平成16年4月から当館所蔵文書及び複製文書の一部について、閲覧請求記号が変更になりました。（閲覧手続き等は従来どおりです。）

◆取扱い上特に注意が必要な形態の文書や、閲覧に際して一定の条件を付した文書については、閲覧用目録に「条件公開」の注記があり、別途手続きが必要です。

◆県内所在文書の複製物は、市町村別に分類して記号を付していますが、進行中の合併が一段落するまで従来のままとします。

領（元和5～延宝8）でしたが、天和元（1681）年以後は幕領となって明治に至ります。文書群は近世の質地・土地売買・金銭貸借証文類が約7割を占めており、布施家が元禄期（1688～1703）前後から盛んに土地の集積を行っている様子が窺えます。宝暦期（1751～63）には庄屋を勤めるようになり、それに伴って検地帳写や年貢割付・皆済を始めとする公的文書が現れてきます。そこには村で起こった様々な問題や事件に関するもの、例えば真宗寺院の創設や、祭礼時隣村若者との出入り、家督相続や分家の輩出など女谷村の生活の歴史が具体的に分かる文書も多数含まれています。

明治に入ると戸長・副大区長等公職を複数勤めたようですが、それらに関わる文書はまれで、むしろ昭和期に至る婚礼・葬儀・法事の記録が多く目につきます。平成12年度購入。閲覧は原本のみ。

（請求記号E0013）

●南蒲原郡見附組大庄屋金井杉亭発句集

現見附市。9点、文政元（1818）～同8（1825）年。村松藩領で、金井家11代貫左衛門（1773～1833）は、杉亭（さんてい）と号した俳人でもあり、亀田鵬斎や小林一茶をはじめとして越後内外の文人墨客多数と交友がありました。人生の充実した時期における、意欲的な創作活動の一端が伺えます。

「沈々麓句」（文政元） 「沈々麓句」（文政4）
 「冬之椽（うめ）」（文政4） 「俳諧発句帖」（文政5）
 「沈々麓句」（文政5カ） 「四季発句」（文政5）
 「沈々麓句」（文政5）
 「婦与能字米（ふよのうめ）」（文政6）
 「佐渡句」（文政8）

平成15年度東京都・金井昭彦氏寄託。閲覧は原本及び複製。

（請求記号C F 70）

まさかの水害



7月24日、三条市内

去る7月13日、新潟県中部を中心に激しい集中豪雨が襲い、河川の溢水、破堤、湛水、土砂崩れが各地で短時間のうちに次々と発生、十数市町村で被害がありました。特に、三条市や中之島町では破堤によって広い地域が床上150センチ以上浸水、後者では役場がその直撃を受けて機能停止になる事態となりました。浸水の速度が想像を超えて早かったため避難するだけで精一杯という中で、何人かの高齢者が犠牲になっています。

浸水が引くに従って住宅や事務所等からは、汚泥とそれにまみれたあらゆる家具・事務機器が廃棄物となって出されたため、どこの道路も山のようなそれらで溢れてしまいました。被災後間もなく各地から復興ボランティアの人々が集まり、また、地元でも受け入れ態勢の立ち上げが早かったため、順調に

屋内の片付けが進んだ結果でもありました。

水害発生から凡そ10日の時点で、主管の県教育庁文化行政課と当館の連名で、市町村の文化財主管課長あてに被災文書等の応急的処置を呼びかける文書を発信。同時に報道各社にも広報を依頼して協力を得ました。このころから越佐歴史資料調査会の有志が中心となって現地確認が行われ、既知の歴史資料所蔵者宅を歴訪した結果、意外と助かっていることが分かりました。しかし、現在に近い時期のものや、業務遂行中のものを始め家族のアルバムや、大切にしていた蔵書などが大量に廃棄されているのを見ると、そうせざるを得なかった人の心痛は察するに余りあって慰めようもありません。

当館は、常々「保存ネットワーク」の普及を提唱していますが、これは様々な立場の人と組織が連携し、後援しあうことの大切さを考えるところに原点があります。「歴史資料」を古文書・古書籍の代名詞のように、一方的に狭く考えてしまわないように気をつけながら、いろいろな場面を想定した心構えを早急に共有できるようにしたいと思っています。

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市女池南3丁目1番2号
 TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737
 H P <http://www.lalanet.gr.jp/npa/>
 Eメール archives@mail.lalanet.gr.jp